

高温から水稻を守りましょう！



- 白未熟粒は、出穂後、高温の場合に発生しやすくなります。
- 気象情報などに注意し、高温障害を回避するための技術対策をお願いします。

※気象庁3ヶ月予報(R6.6.25発表)によると7～9月の平均気温は「高い」確率が60%です。
※R2年産は高温による未熟粒の発生により一等米比率が大きく低下しました。

高温時の技術対策

○施肥

葉色が薄い場合は出穂後も追肥を施用し、稲体の活力を維持しましょう。

○水管理

- ・かけ流し及び夜間かん水等により地温低下を図りましょう。
- ・早期落水は、未熟粒や屑米、胴割れ米、茶米の増加につながるため、出穂後30日頃を目安にできるだけ落水を遅らせましょう。



<高温で発生した白未熟粒>

○適期収穫

胴割れ米や茶米等の増加による玄米品質の低下を防ぐため適期に刈り取りをしましょう。

○病害虫防除

高温年は、ウンカ類やコブノメイガ、紋枯病などの病害虫の発生が多い傾向にあります。予察情報に留意するとともにほ場観察につとめ、発生が確認された場合は、早期に防除しましょう。

(参考)岡山県における「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」「にこまる」の一等米比率の推移

年産	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
ヒノヒカリ	82.6	78.8	54.6	30.6	79.6	42.8	53.1
きぬむすめ	84.0	82.6	80.7	63.3	75.3	76.2	63.8
にこまる	92.9	68.4	84.2	83.3	87.4	38.0*	89.9

※R4年産は台風と日照不足等から品質が低下
(単位：％、農林水産省農産物検査結果)

問い合わせ

岡山県地域稲作戦略推進会議（事務局：岡山県農林水産部農産課）

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 TEL: 086-226-7424

岡山米ホームページ <https://www.pref.okayama.jp/page/detail-16018.html>